



森林ふれあい情報

平成24年12月

第25号

中部森林管理局木曾森林環境保全ふれあいセンター

〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7

TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151

E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

森林ボランティア・NPO連携推進会議

10月5日(金)・6日(土)の2日間、岐阜県中津川市の中津川文化会館及び中津川河川公園芝生広場において、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」と関連イベント「森・ふれあいフェスタ」(連携推進会議実行委員会主催)を開催し、中部森林管理局管内4県から森林ボランティア団体・NPO法人など19団体と、局署の職員等、併せて総勢76名が参加しました。

この会議は、講演会、意見交換会、市民参加型のワークショップを開催・運営することを通じて、ボランティア団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民に対し、国民参加の森づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRする目的で実施したところです。

1日目の講演会では「苗木遠山と山林 木曾川運材に働いた大名」と題し、中津川市苗木遠山史料館調査員の千早保之氏から、江戸時代に幕府老中より名古屋城築城など用材の搬出に関する3代官(木曾代官、裏木曾代官、伊奈代官)あての書状、木曾川や支流での用材流しの絵図など、貴重な史料に基づく講話がありました。意見交換会は「森林づくり」及び「森林とのふれあい」の二つをテーマに、6班に分かれて、各団体の活動の現状や課題、取組方向などの意見交換と共有を行いました。



講演会

2日目の「森・ふれあいフェスタ」は、好天に恵まれ、延べ320名の市民、家族づれの方々が来場し、14のワークショップ(「竹とんぼ作り」、「竹笛作り」、「丸太切りと小木工」、「ドパスアート」、「かんなくずプール」、「屋根葺き体験」、「足踏みロクロ体験」など)を楽しんだり感心したりしていました。

2日間を通じ、参加団体の連携が深まるとともに、今後の活動の幅や内容が広がる機会となりました。



ドパスアート



かんなくずプール



屋根葺き体験



足踏みロクロ体験



参加者(森林ボランティア団体等)の皆さん

長野県西部地震災害復旧地における 自然再生事業

1984年（昭和59年）9月14日午前8時48分49秒に長野県木曾郡王滝村の御嶽山付近でM6.8の地震が発生し、死者・行方不明者29名・家屋の損壊604戸という深い爪痕を残しました。

この長野県西部地震により御嶽山南部に「御岳崩れ」と呼ばれている山腹崩壊が発生し、その大量の土石は王滝川支流の伝上川を時速100km近い猛スピードでかけ下り、一部が小高い尾根を乗り越え隣の濁川・鈴ヶ沢をも流下して約600haの森林を消失、崩壊土石等に覆われた広大で荒涼とした地形に一変させました。

その後、二次土砂災害防止・荒廃地の緑化を図る治山事業や、ボランティアの手を借りた自然再生の取組を進めて来ています。



御嶽山と緑化された濁川を望む

現在までの28年間に、表土作りのための客土、9万本もの苗木の植林や下草刈り、施肥が行われ、最近では除伐等の保育事業も実施されています。

そうした努力の結果、濁川の平坦な一帯は、ハンノキ・ヤシヤブシ等の肥料木をはじめとした多くの樹木が生育しており、森林土壌の形成には100～200年以上かかるともいわれてる中で、まだまだ貧相ではありますが、落ち葉の供給や根粒菌等々の働きにより土壌の形成も徐々に行われつつあります。

こうした現状において、今秋も後継期待樹種であるヒノキの生長状況調査、肥料木としてのハンノキの萌芽による後生枝発生促進の試験調査を行っています。

この試験は、ハンノキが根張り以上に徒長が著しいことから、根倒れの防止と、将来樹種である下層木のヒノキや広葉樹等への被圧防止、ハンノキの萌芽促進による肥料木効果の持続を狙っています。ハンノキを1m程度の高さで中段切りしたもので、現在のところ後生枝は1年目の発生は見たものの2年目には腐朽菌の侵入等から、ほとんど萌芽の発生が

無く枯損するため、木口を保護する薬剤塗布試験を新たに昨年実施し、観察中です。

伐採後1年目ですが、発芽率は63%となっており勢いもあることから、今後に期待をつなぎ、来年度以降も後継樹とともに順調に生長してくれて、安定した土壌の上に健全な森林が成立した姿を一日でも早く実現できればと願っているところです。



旺盛に葉を出したハンノキ



木口に薬剤処理したが干割れして枯損



木口の腐朽菌の侵入を防ぐ処理試験地

樹齢300年の森林づくり

特定非営利活動法人地球緑化センターは、赤沢自然休養林内の伊勢湾台風による風倒被害跡地に植林したヒノキ人工林を、ふれあいの森として木曾森林管理署と協定を結び、森林整備を毎年行っています。今年も6月、9月、10月に、間伐作業を行い、当センターと木曾森林管理署で技術及び安全作業の指導をしました。

10月21日、今年の作業の最終日には、職員とともに、今年の予定面積0.44haをきれいに完成させることを使命として、5名の精鋭部隊が、休養林内の木々が色づき、多くの観光客が紅葉狩りを楽しんでいるのを見ながら入山しました。

現地は、急傾斜地で比較的立木が混み合い、間伐木のほとんどがかかり木になってしまい、その都度フェリングレバーや、ロープを使用した、かかり木処理を行いながら作業を終えました。

参加者は鋸で切るよりも倒すのに苦労しているようでしたが、明るくなった林内で心地よい汗と作業の大変さを実感していました。



伐倒作業をする女性参加者



急傾斜地で間伐木の処理

緑の挑戦者の森林整備指導

木曾郡3町村と森林整備協定を結んでいるNPO法人「緑の挑戦者」50名が、10月27日の紅葉真っ盛りの中、木曾町戸立の町有林で今年最後の森林ボランティアに汗を流しました。

当センターでは木曾町の要請を受けて、作業用具の貸し出しと技術指導を行いました。

自家用車やバスで名古屋方面から駆け付けた参加者は、木曾町産業観光課担当係長の歓迎挨拶を受け、カラマツ林の除伐作業に取り掛かりました。

今回初参加の子どもは、最初足元を気にしながらノコギリを使っていたのですが、慣れてくると手際よく作業を行っていました。

最後に当センター所長から「皆さんの作業のおかげで、見違えるほどいい森林になり、下流域に美味しい水が供給できます。」との講評で無事作業を終えました。



一斉に除伐作業にとりかかる参加者



一生懸命に除伐する参加者

史跡の森ササユリ生育地整備及び 小鳥の巣箱掛け

11月18日、城山史跡の森倶楽部からササユリ生育地整備と小鳥の巣箱掛け作業の技術指導要請を受け、当センターの2名が指導に当たりました。

参加者は、城山史跡の森倶楽部のほか長生会福島・王滝支部、長野県林業大学校生、企業ボランティアの皆さんなど、総勢17名が参加して実施しました。

「城山史跡の森」はセンターの活動拠点でもあり、JR木曾福島駅もみじがおがから足湯-山村代官屋敷等を経由して紅葉ヶ丘まで約2kmとアクセスに恵まれ、街場に近いたととも昔の山城城址もある貴重な天然林で、地域の方々の散策や、軽登山で訪れるお客様も多い場所です。

また、ここに自生するササユリは、長野県のレッドデータブックにも準絶滅危惧種と指定されており、当センターでも保護増殖活動に努めて来たところです。

今回の作業は、生育地が雑木により日当たりが悪くなってきていることから、種の保護と保存を目的として、雑木の除伐と林床の整備、繁殖のための種の採り蒔きを実施しました。



ササユリ



播種風景

また、並行して毎年実施している小鳥の巣箱掛けも実施しました。

ターゲットの鳥類はシジウカラなどのカラ類に設定しています。

昨年設置した巣箱30箱を下ろし、今年度地元の方が丹念に作成してくれた真新しい巣箱35箱を掛けなおしました。

下ろした巣箱の利用率は、30箱のうち10箱にコケなどで営巣・利用した形跡があり、今年掛けた巣箱もより多く利用してもらうよう、掛ける場所や高さを工夫して作業を行ったところです。



設置風景



除伐と整地作業



参加者で記念撮影